

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業  
e-ASIA 共同研究プログラム（がん研究分野）  
令和3年度事後評価  
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	HBV/HDV 共感染が肝細胞癌ゲノム、バイオロジーに与える影響の解明
研究開発代表者	山下 太郎
代表機関	金沢大学

○評価委員会コメント

本研究課題では、日本人肝細胞癌患者の肝癌ゲノム情報の解析を行い、ソラフェニブ抵抗性を規定する遺伝子が **Capicua (CIC)** であることを同定した。また、この変異は日本人の肝細胞癌に特異的であり、モンゴル人の肝細胞癌組織においては認められないことを見いだした。これらの発見は評価委員会において重要な成果であると評価された。

さらに、研究者らは日本・米国・モンゴルとの国際共同研究により、モンゴル人 **HBV/HDV** 共感染肝細胞癌患者の遺伝子発現プロファイリングを行い、モンゴル人に特異的な融合遺伝子候補を複数見いだした。加えて、金沢大学でベトナムからの国費留学生を受け入れ、ゲノム解析などのトレーニングの場を提供し、ベトナムの若手研究者の人材育成に寄与したことが評価された。

一方、当初予定されていたベトナムからの肝細胞癌組織の提供が実現しなかったこと、モンゴルからの **RNA** 解析用組織の提供に時間を要したことから、**HBV/HDV** 共感染による肝細胞癌の発がんメカニズムを解析する環境整備が遅れた。また、**HBV/HDV** 共感染関連肝細胞癌に特化した、診断治療に有用なバイオマーカーや治療標的分子候補の導出についても研究期間内には当初の目的達成には至らなかった。米国と日本が別々に論文を出している事などから、3ヶ国の研究者の連携は十分ではなかったように見受けられた。今後の継続的な共同研究および関係構築が期待される。